

報告書

京都市の芸術家等の
活動状況に関する
アンケート調査結果について
[個人]



京都市
CITY OF KYOTO



京都芸術センター
KYOTO ART CENTER

目 次

3 調査概要

4 基礎情報

居住地

5 制作拠点

発表・活動場所

6 年齢

キャリア年数

性別

7 生業として行っているか

表現分野〈8分野〉

8 業務内容・形態〈5分類〉

9 文化芸術活動とは別の仕事

別の主な仕事の雇用形態

10 生業／非生業と専業／兼業

表現分野別の生業／非生業と
専業／兼業〈8分野〉

11 新型コロナウイルスの 影響と収入損失について

延期または中止があるか

12 収入損失の計

収入損失の月別推移

性別の収入損失

13 生業／非生業別の収入損失

表現分野別の収入損失

14 業務内容別の収入損失

表現分野別の生活費確保の状況〈8分野〉

15 受け取る予定だった収入元

16 表現分野別の受け取る予定だった収入元〈8分野〉

業務内容別の受け取る予定だった収入元〈5分類〉

17 支払いに影響のある経費

18 表現分野別の支払いに影響のある経費〈8分野〉

19 業務内容別の支払いに影響のある経費〈5分類〉

20 現在困っていること

現在困っていること

21 表現分野別の困っていること〈8分野〉

22 業務内容別の困っていること〈5分類〉

23 必要な支援について

必要な支援

24 表現分野別の必要な支援〈8分野〉

25 業務内容別の必要な支援〈5分類〉

26 自由回答から

現状について

27 支援策について

28 実践している取組

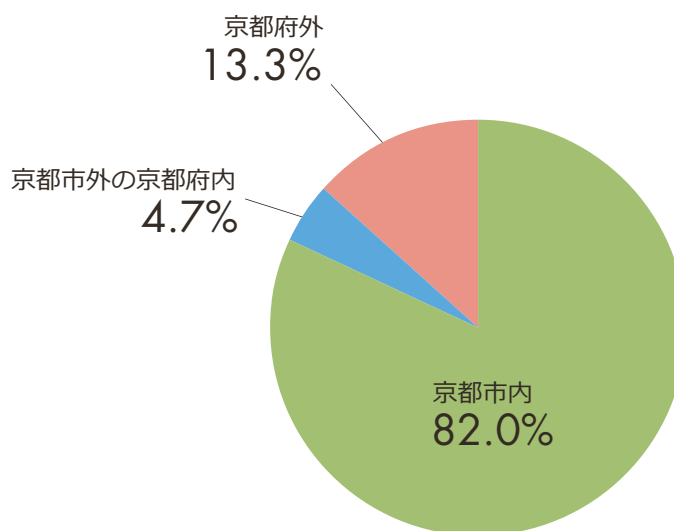
29 その他

回答期間	2020年5月7日～5月20日(14日間)
調査実施者	京都市(実施受託:京都芸術センター〈公益財団法人京都市芸術文化協会〉)
調査対象	①京都市内に居住あるいは拠点をもち芸術家及び文化芸術を支える個人 ②京都市を拠点または市内で活動をする文化芸術活動に関わる団体・事業所
調査方法	インターネット調査(一部、郵送調査)
回答数	個人1,184件、団体・事業所292件
有効回答数	個人1,122件、団体・事業所280件 ※居住(所在)地、制作の場所、活動・発表場所のうち、いずれかが京都府内の回答
調査設計・分析協力	大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員、NPO法人アートNPOリンク理事) 樋口貞幸(大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員)、中川眞(大阪市立大学都市研究プラザ特任教授) 吉澤弥生(共立女子大学文芸学部教授)
報告書発行	京都市、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)

京都市との関わりについては、制作拠点(90.3%)＞発表場所(86.5%)＞居住地(82.0%)となっており、微細な差異ながら、京都が居住や発表の場所としてよりも、制作の拠点として機能している、という点が特徴的である。また、割合としては小さいものの、2.9%(33件)が主な発表・活動場所を「海外」としている。

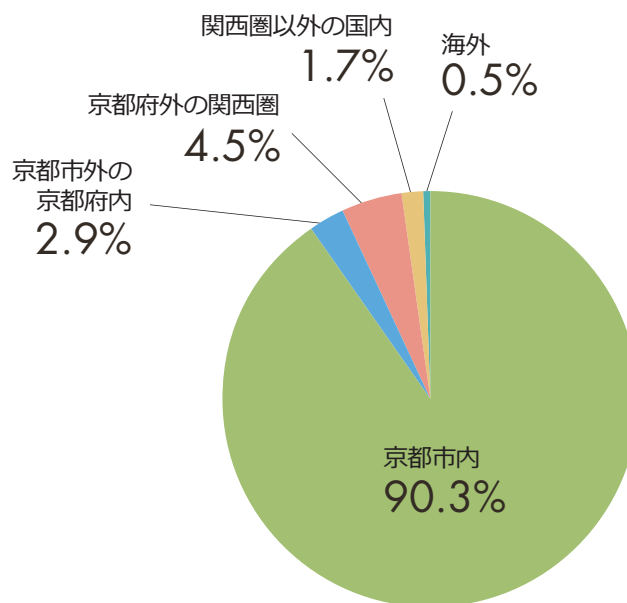
居住地

	件数
京都市内	920
京都市外の京都府内	53
京都府外	149
無回答	0
全体(n)	1,122



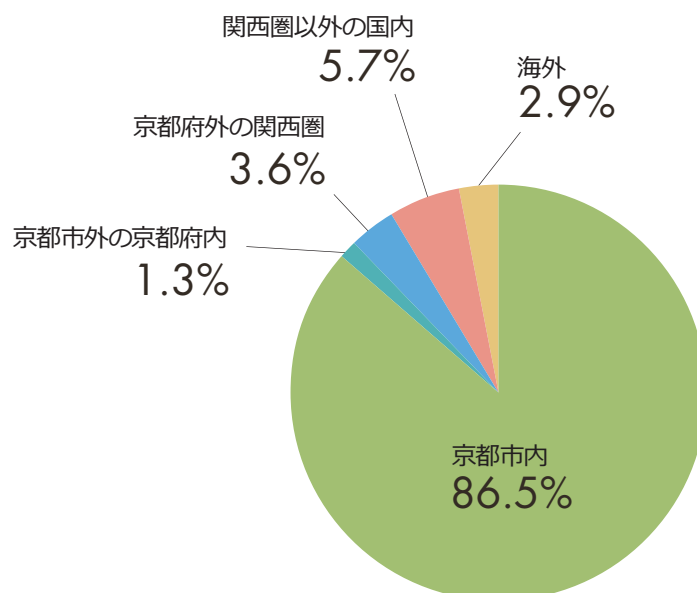
制作拠点

	件数
京都市内	1,013
京都市以外の京都府内	33
京都府以外の関西圏	51
関西圏以外の国内	19
海外	6
無回答	0
全体(n)	1,122



発表・活動場所

	件数
京都市内	970
京都市外の京都府内	15
京都府以外の関西圏	40
関西圏以外の国内	64
海外	33
無回答	0
全体(n)	1,122



女性(43.3%)よりも男性(55.3%)の回答者が多かった。キャリア年数は1年～88年まで大きな幅がある。幅広い年齢層の方が回答しているが、30～50歳代が全体の7割を占めている(本調査がインターネット調査〈一部、郵送調査〉であったことには留意する必要がある)。また、文化芸術活動を生業(=職業)としている、という回答が85.6%となっており、アマチュアや愛好家層よりも、セミプロ・プロ層が多く回答していることが分かる。

回答者の表現分野の分布では美術(40.2%)が最も多く、音楽(23.2%)、演劇・舞踊(20.1%)と続く。

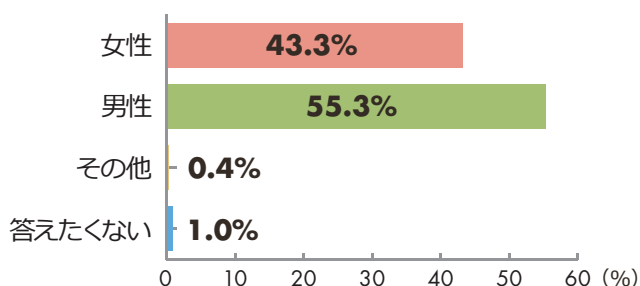
年齢

	割合(%)	件数
20歳代以下	17.6	197
30～50歳代	70.7	793
60歳代以上	11.8	132
無回答	0.0	0
全体(n)	100.0	1,122

キャリア年数

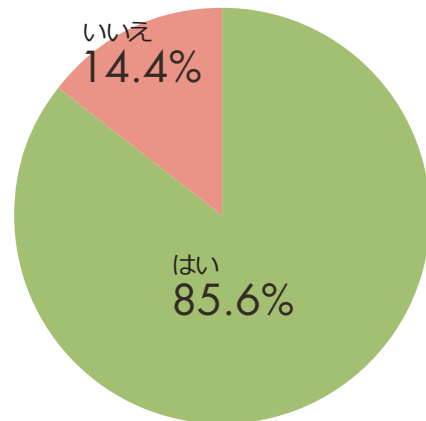
	割合(%)
平均	19.0
最大値	88.0
最小値	1.0
全体(n)	1,109
無回答	13

性別

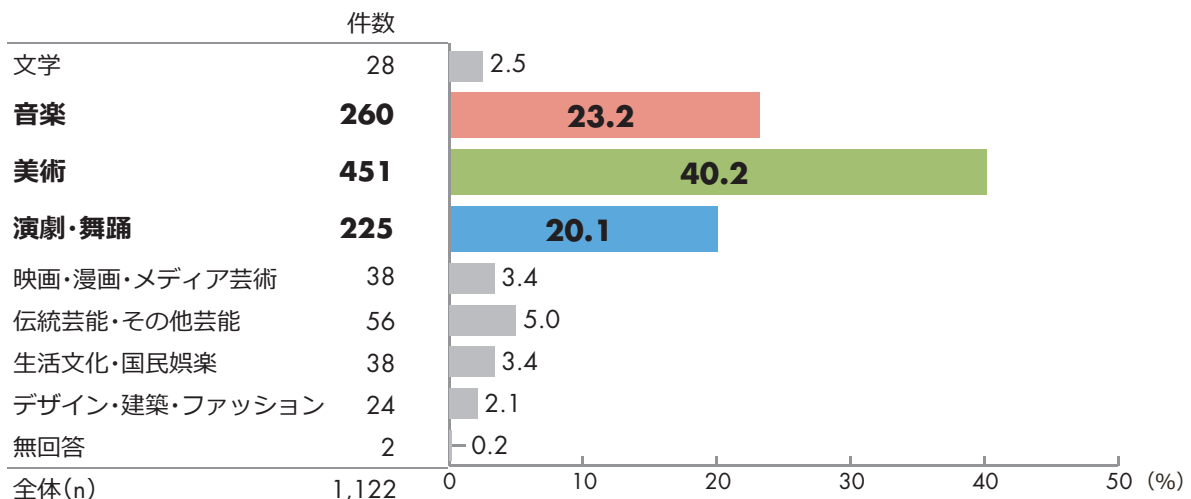


生業として行っているか

	件数
はい	960
いいえ	162
無回答	0
全体(n)	1,122



表現分野<8分野>



文学：小説、戯曲、随筆・詩・俳句・短歌・連句、評論・批評、その他文学

音楽：クラシック音楽(オペラ、オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽等)、ポピュラー音楽(ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲等)、邦楽(琴、三味線、尺八、笛・声明等)、エレクトロニカ・電子音楽、民族音楽、その他の音楽

美術：造形(絵画、版画、彫刻)、工芸(陶芸、書、染織、クラフト)、写真・映像、パフォーマンス(舞踊、演劇以外の身体芸術)、複合芸術・アートプロジェクト、その他の美術

演劇・舞踊：演劇(現代演劇、人形劇、ミュージカル)、舞踊(バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス)、ストリートダンス、ジャズダンス、民族舞踊(フラダンス、サルサ、フラメンコ等)、社交ダンス、その他の舞台芸術

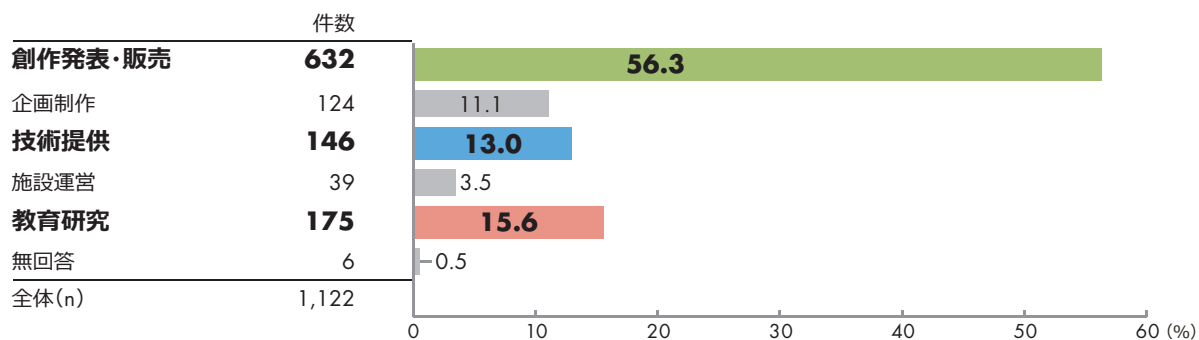
映画・漫画・メディア芸術：映画(アニメを除く)、アニメーション、漫画、コンピュータや映像を活用したアート(メディアアート)、その他のメディア芸術

伝統芸能・その他芸能：雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊、日本舞踊、講談、落語、浪曲、漫才・漫談、その他の芸能

生活文化・国民娯楽：茶道、華道、フラワーアレンジメント、書道、香道、食文化、国民娯楽(囲碁・将棋等)、その他の生活文化

デザイン・建築・ファッション：グラフィックデザイン・ウェブデザイン、建築設計・インテリアデザイン、プロダクトデザイン、ファッション・服飾、その他のデザイン

業務内容・形態〈5分類〉



創作発表・販売：音楽や舞台芸術・映画・アニメ等の作品創作、音楽や舞台芸術・映画・アニメ等の出演、美術やメディア芸術等の作品創作・発表、その他の創作・発表・販売・演出

企画制作：プロデューサー・ディレクター、キュレーター・ギャラリスト(企画)、マネージャー・プロモーター、コーディネーター・中間支援、その他の企画制作

技術提供：照明技術、音響技術、舞台技術・舞台管理、道具・衣装製作、展示設営、撮影・編集・プログラミング、デザイン、通訳・翻訳、その他の技術提供

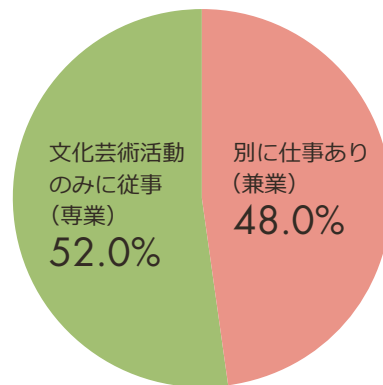
施設運営：ホール・劇場、美術館・博物館、映画館、ギャラリー・古物商、ライブハウス・クラブ、スタジオ・アトリエ・教室、その他の施設運営

教育研究：教室等の指導者、専修学校・養成所指導者、大学・高等学校の専任教員、批評家・研究者、その他の教育研究

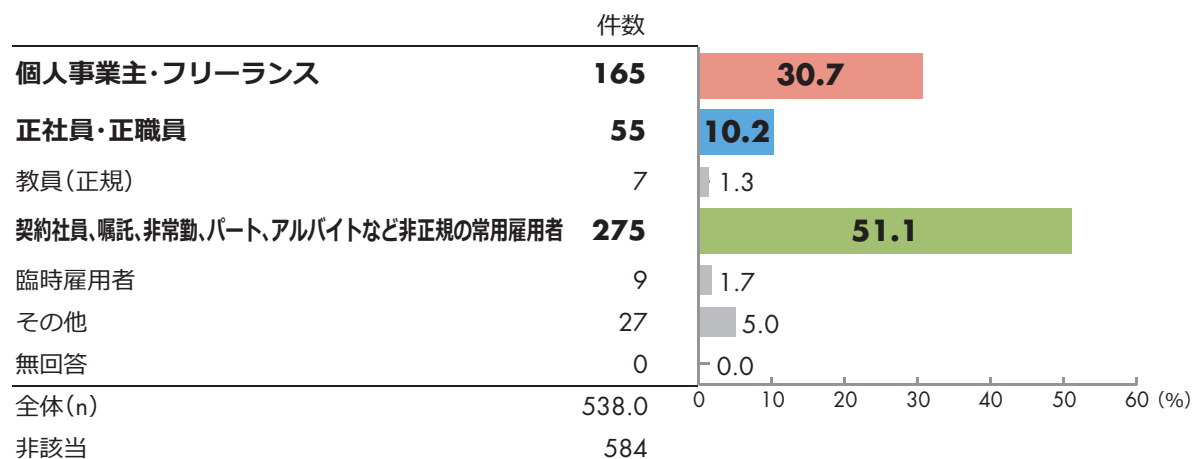
本アンケート調査が京都市文化芸術活動緊急奨励金の募集と同時期に行われ、新型コロナウイルス感染症拡大による活動への影響を問うことを目的としたものであったことから、文化芸術を生業とし、かつ文化芸術活動のみに従事する人(生業・専業)が回答者の5割を占めた。分野ごとでみると「伝統芸能・その他芸能」分野は75.0%が生業・専業で最も高い。

文化芸術活動とは別の仕事

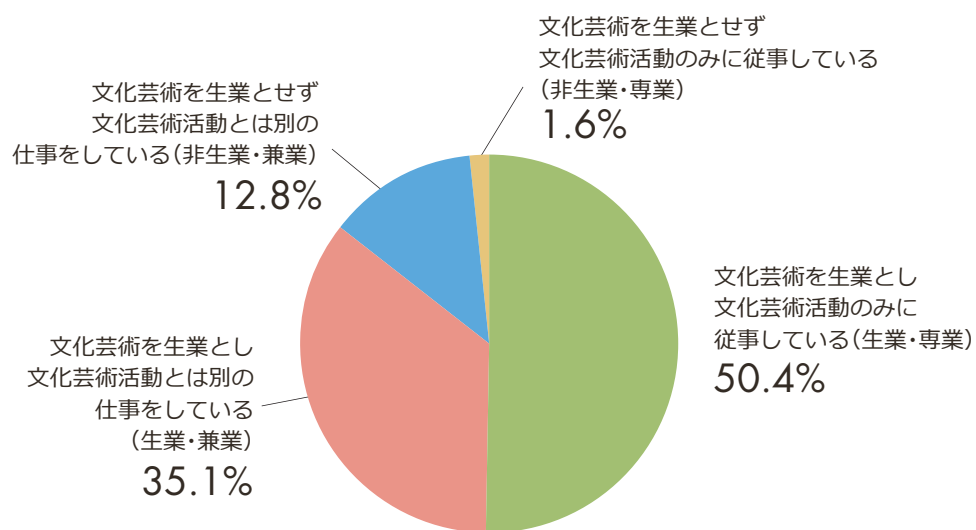
	件数
文化芸術活動とは別に仕事をしている	538
文化芸術活動のみに従事している	584
無回答	0
全体(n)	1,122



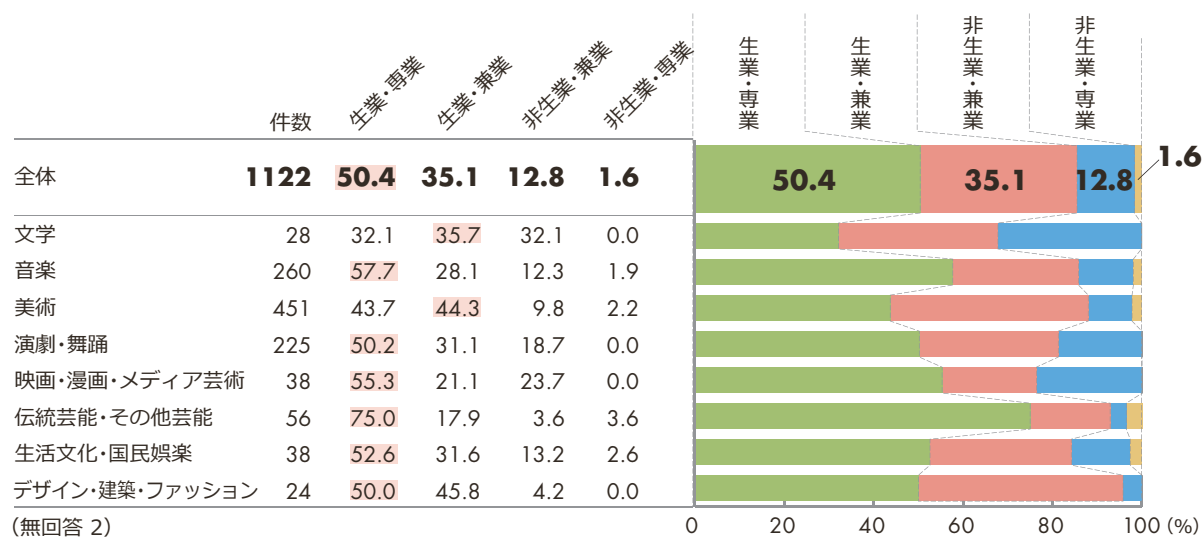
別の主な仕事の雇用形態



生業／非生業と専業／兼業



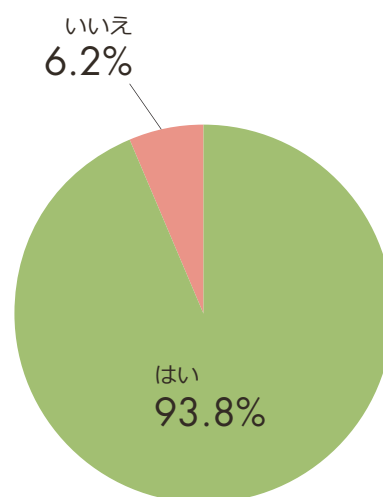
表現分野別の生業／非生業と専業／兼業(8分野)



93.8%が新型コロナウイルスの影響により「公演や展示等の延期または中止」を経験し、平均すると約88万2千円の損失があった。回答金額の合計は個人で8億9千万円、団体・事業所の合計は8億7千万円。これは今回の回答(個人:1,112件 団体・事業所:280件)だけの金額であり、実際には更に大きな経済的損失が発生していると考えられる。月ごとにみると4月が最も高い。また、男女の収入損失に大きな開きがあり、新型コロナウイルス感染症拡大以前からの課題も浮きぼりとなった。

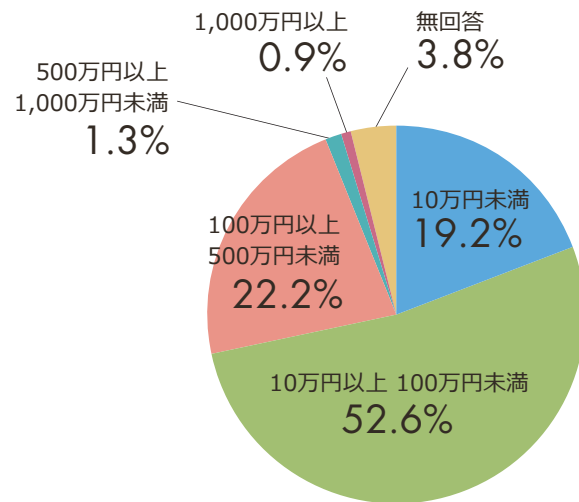
延期または中止があるか

	件数
はい	1,052
いいえ	70
無回答	0
全体(n)	1,122

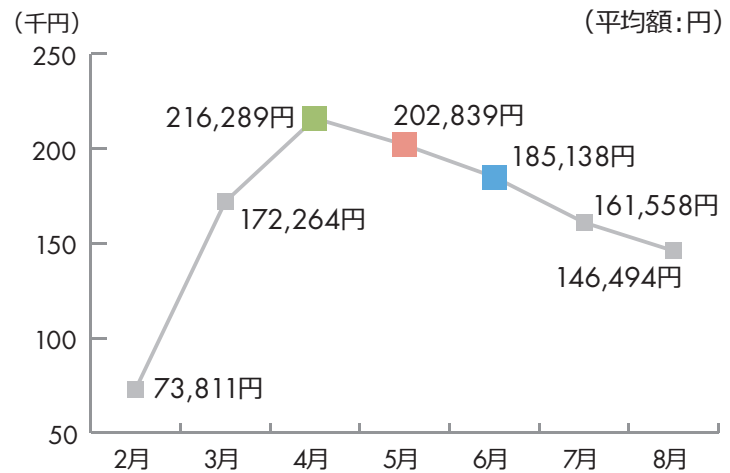


収入損失の計

	額(円)
合計	892,954,903
平均	882,367
最大値	26,500,000
最小値	0
全体(件)	1,012
無回答(件)	40
非該当(件)	70

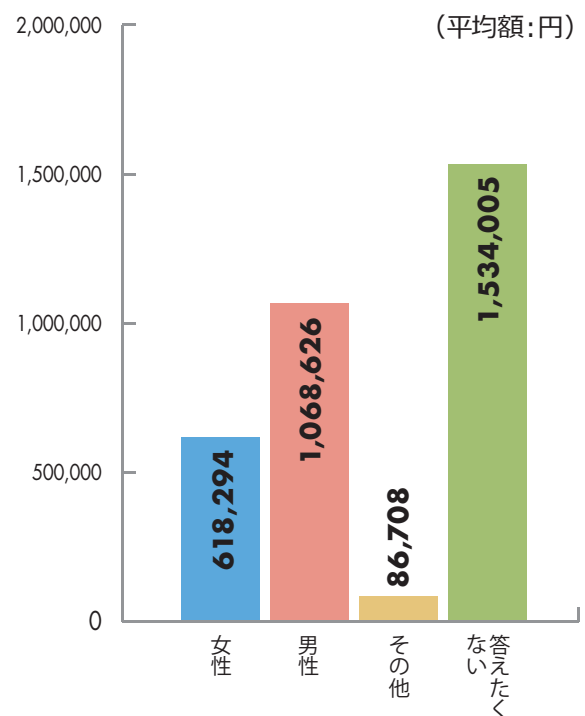


収入損失の月別推移



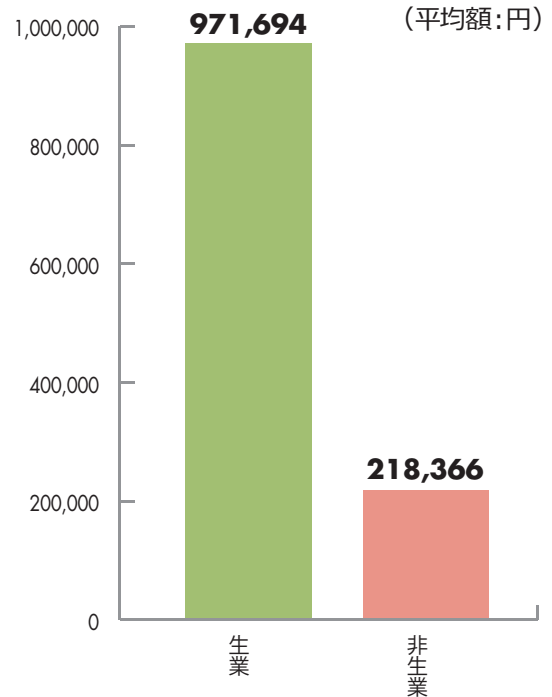
性別の収入損失

	件数	平均	合計
女性	418	618,294	258,446,773
男性	579	1,068,626	618,734,544
その他	5	86,708	433,540
答えたくない	10	1,534,005	15,340,046



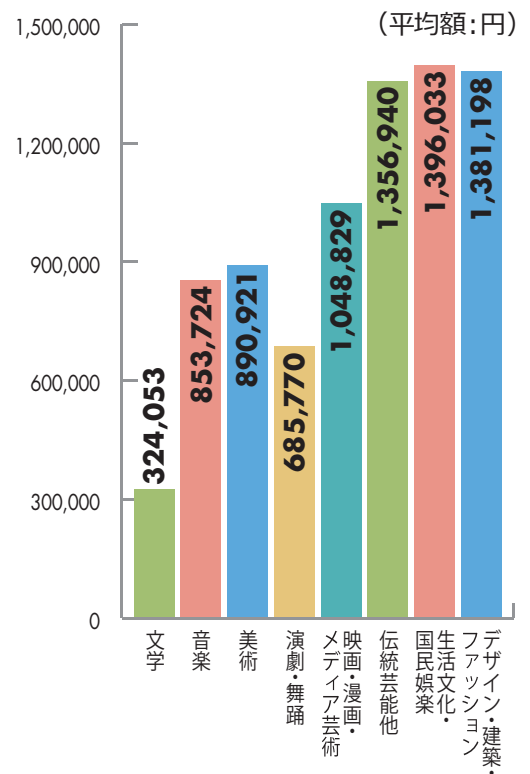
生業／非生業別の収入損失

	件数	平均	合計
生業	892	971,694	866,750,997
非生業	120	218,366	26,203,906



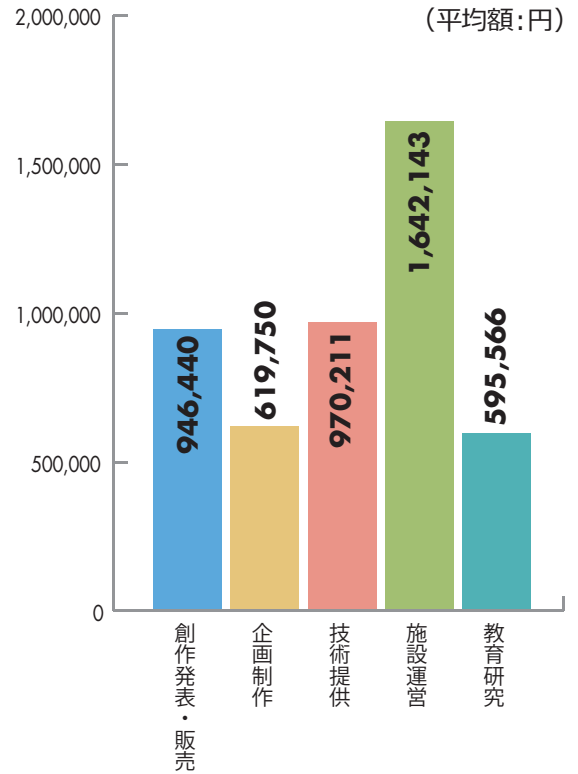
表現分野別の収入損失

	件数	平均	合計
文学	24	324,053	7,777,260
音楽	251	853,724	214,284,702
美術	396	890,921	352,804,582
演劇・舞踊	201	685,770	137,839,809
映画・漫画・メディア芸術	36	1,048,829	37,757,830
伝統芸能・その他芸能	51	1,356,940	69,203,920
生活文化・国民娯楽	30	1,396,033	41,881,000
デザイン・建築・ファッション	21	1,381,198	29,005,150

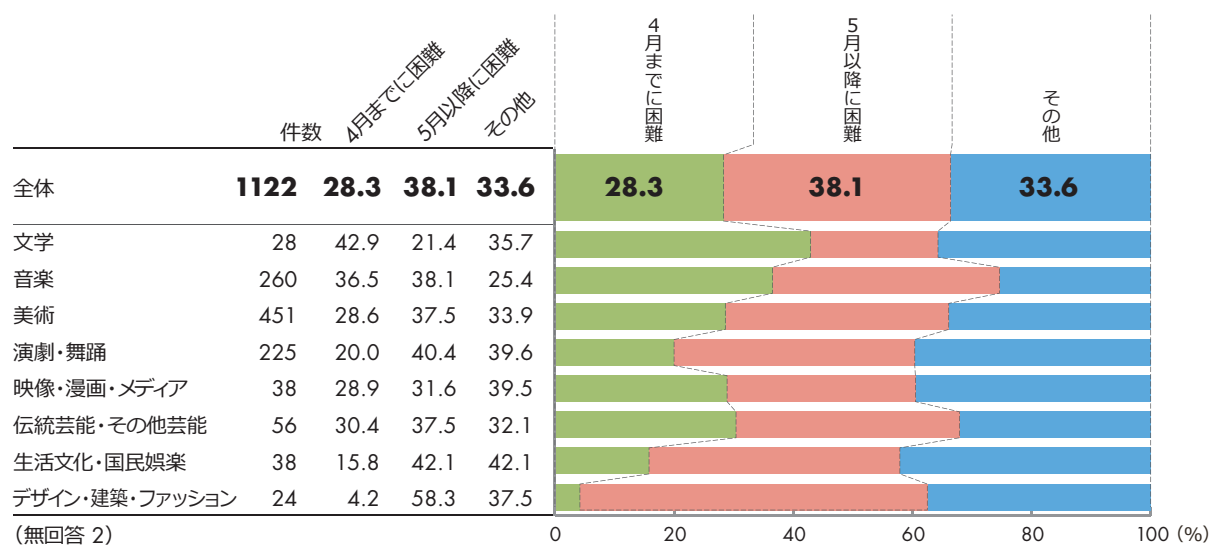


業務内容別の収入損失

	件数	平均	合計
創作発表・販売	566	946,440	535,684,897
企画制作	111	619,750	68,792,200
技術提供	135	970,211	130,978,469
施設運営	37	1,642,143	60,759,295
教育研究	158	595,566	94,099,392

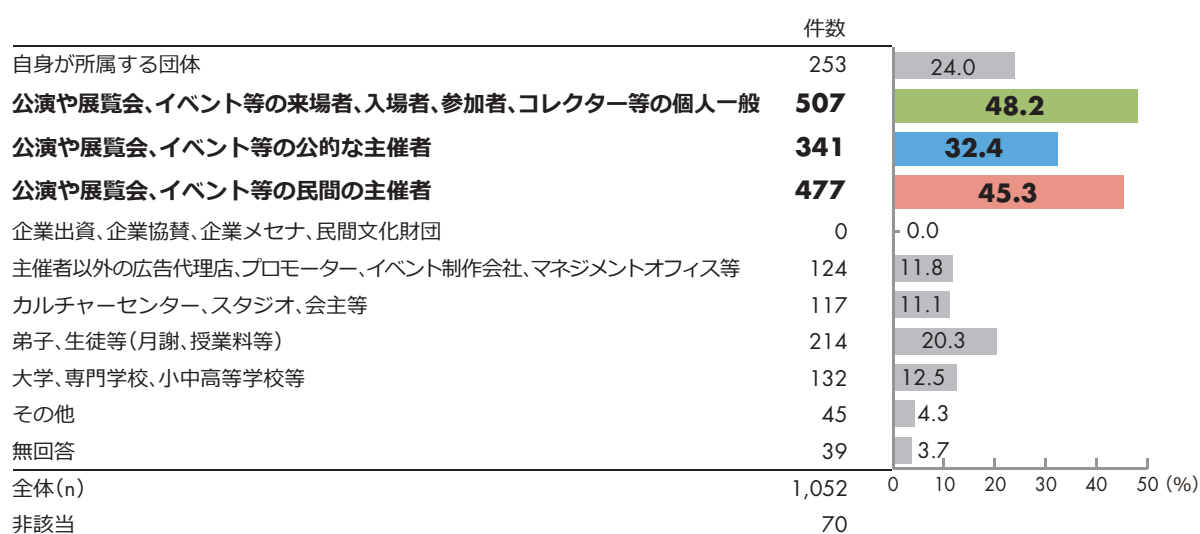


表現分野別の生活費確保の状況〈8分野〉

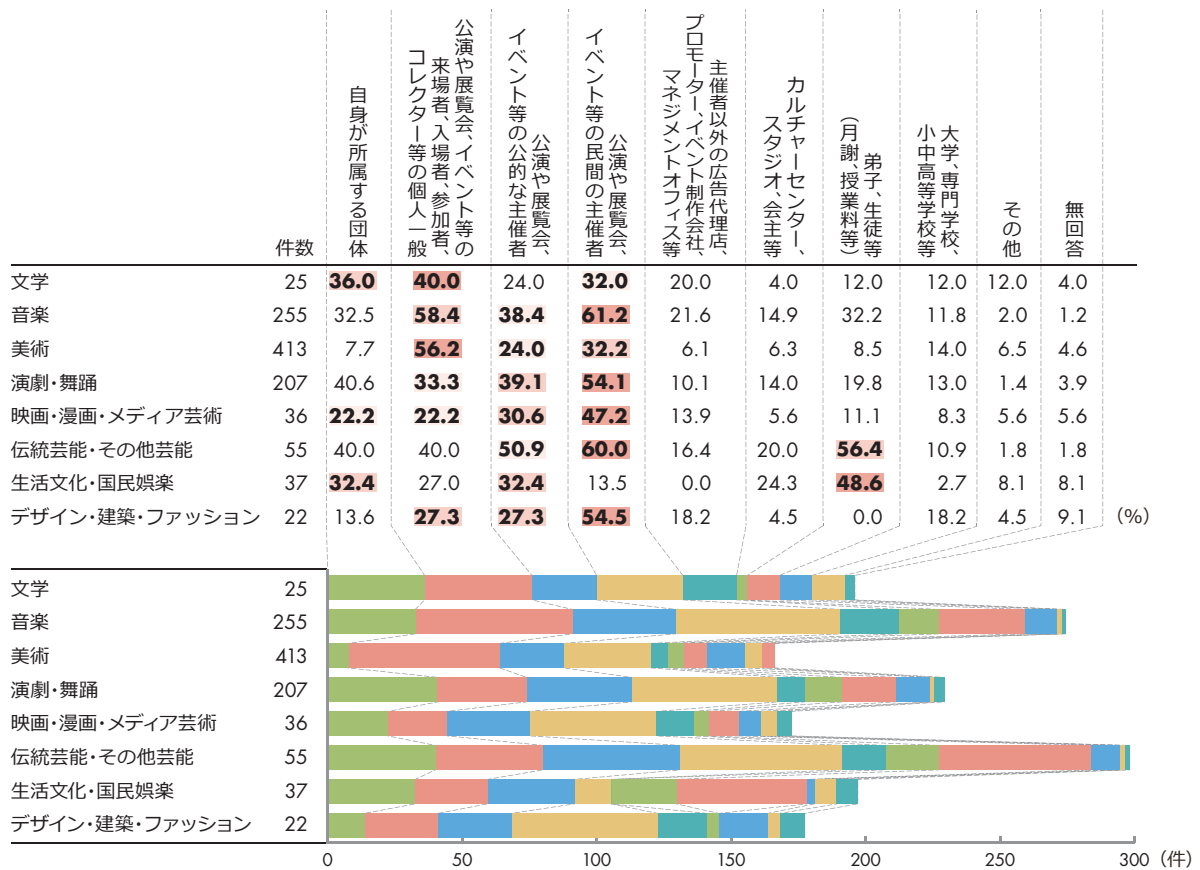


受け取る予定だった収入元は参加者等の個人一般、民間の主催者、公的な主催者の順に多い回答となった。表現分野別にみると、収入元は分野によって多様であることが分かる。例えば、美術では来場者や参加者等個人一般からの収入が多く、伝統芸能等、生活文化等では月謝や授業料といったレッスン料での収入割合が多い。伝統芸能分野は専門が多く、稽古等が実施できない影響は大きいと推察される。

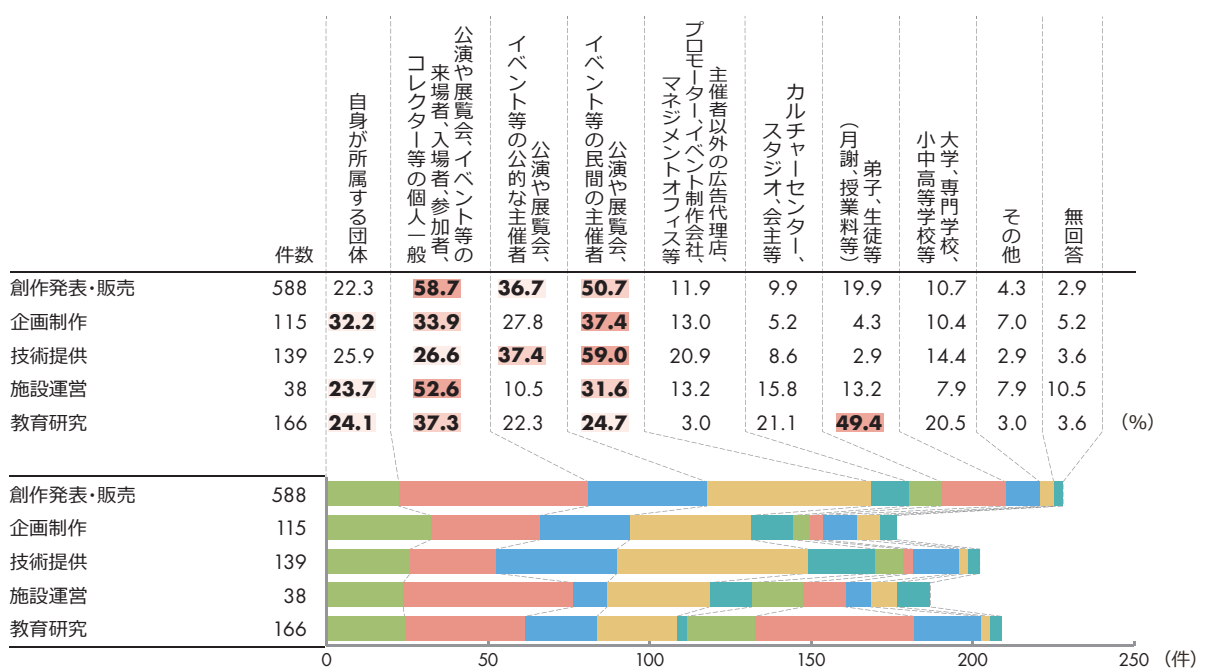
受け取る予定だった収入元(複数回答)



表現分野別の受け取る予定だった収入元(8分野)(複数回答)

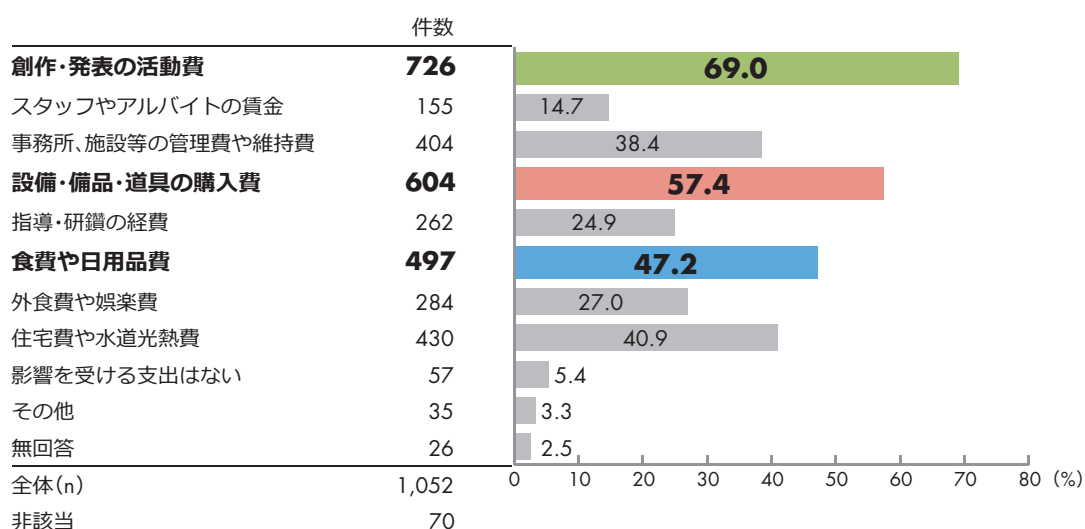


業務内容別の受け取る予定だった収入元(5分類)(複数回答)

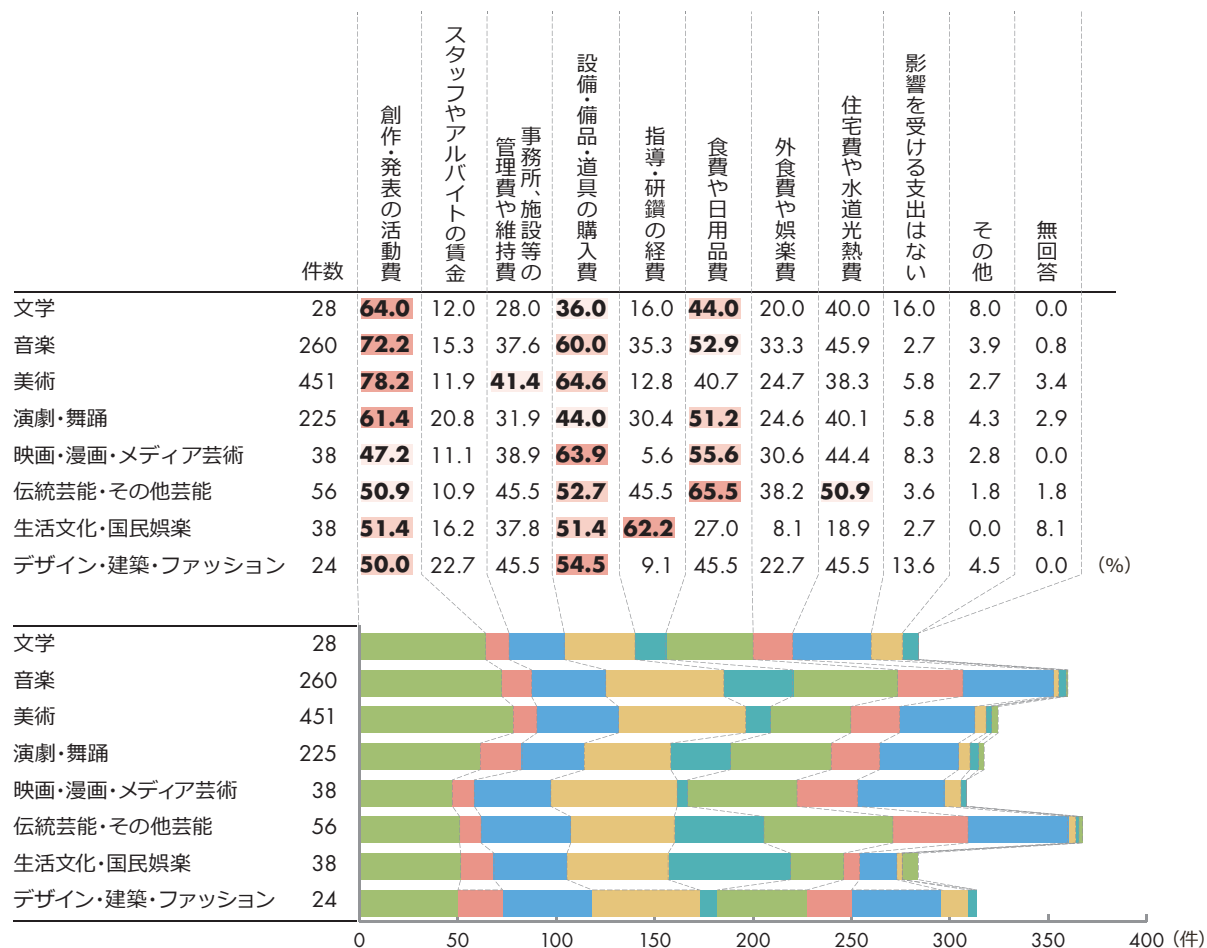


収入の損失があったことで、どのような経費に影響が出るのかをみると、創作・発表の活動費(69.0%)、設備・備品・道具類の購入費(57.4%)、食費や日用品費(47.2%)と続く。業務内容別にみると、創作発表・販売を業務とする方は「創作発表の活動費」と回答する割合が平均よりも高く、施設運営では事務所・施設等の管理費や維持費との回答が多い。どの表現分野も、食費や日用品費にまで影響が及んでおり、文化芸術活動のみならず、生活にも支障が出ている。

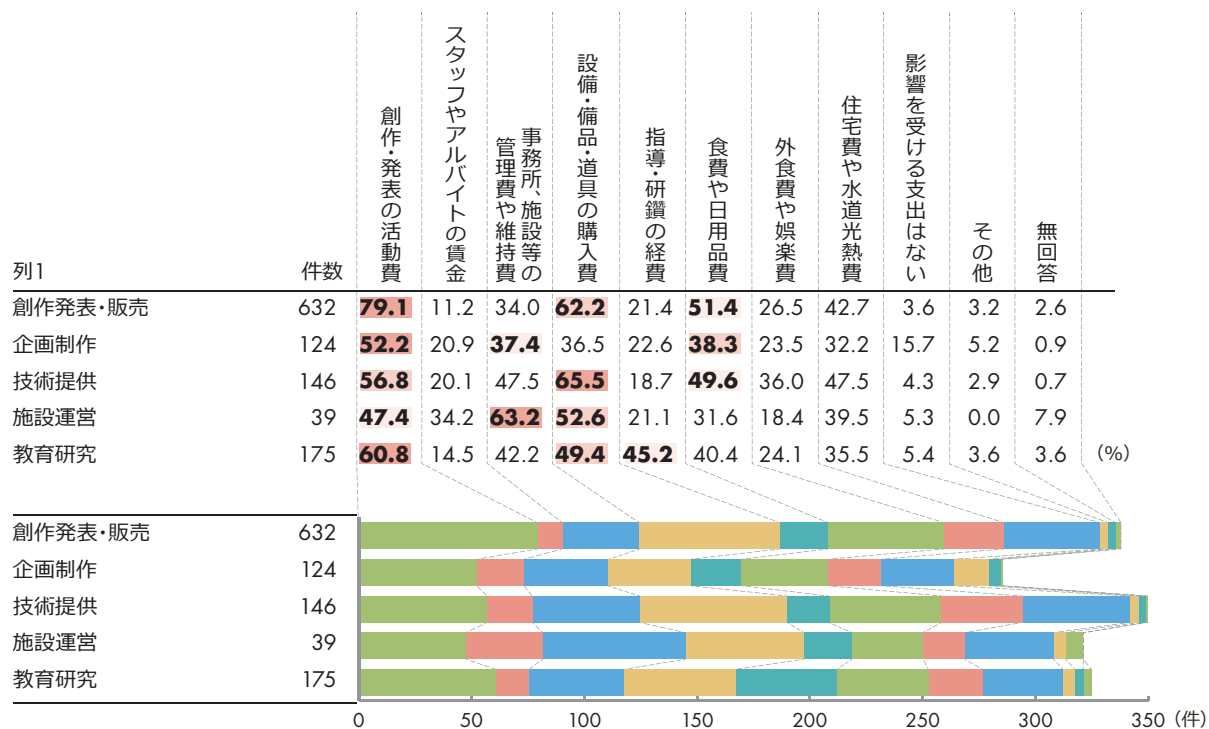
支払いに影響のある経費(複数回答)



表現分野別の支払いに影響のある経費(8分野)(複数回答)



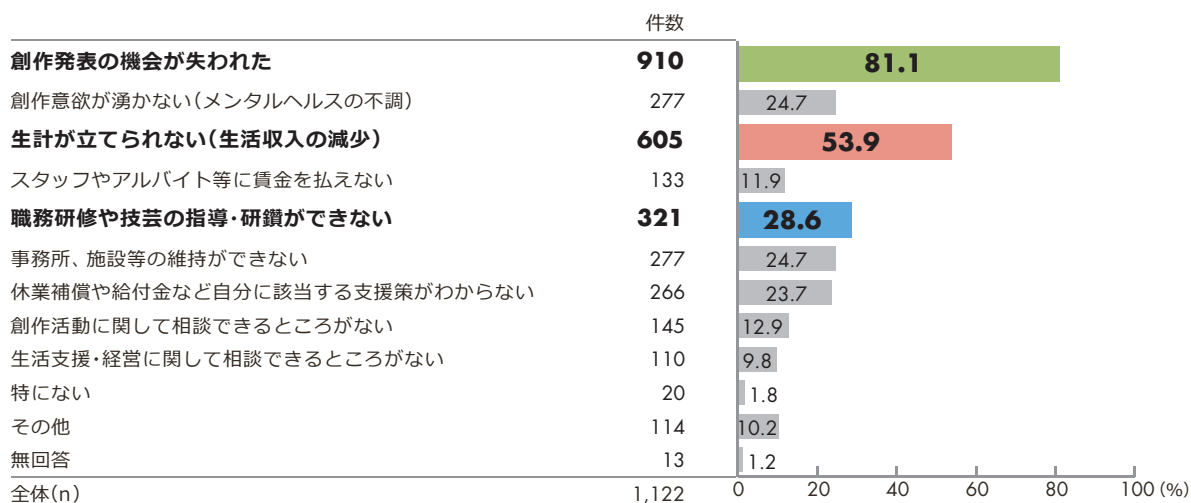
業務内容別の支払いに影響のある経費(5分類)(複数回答)



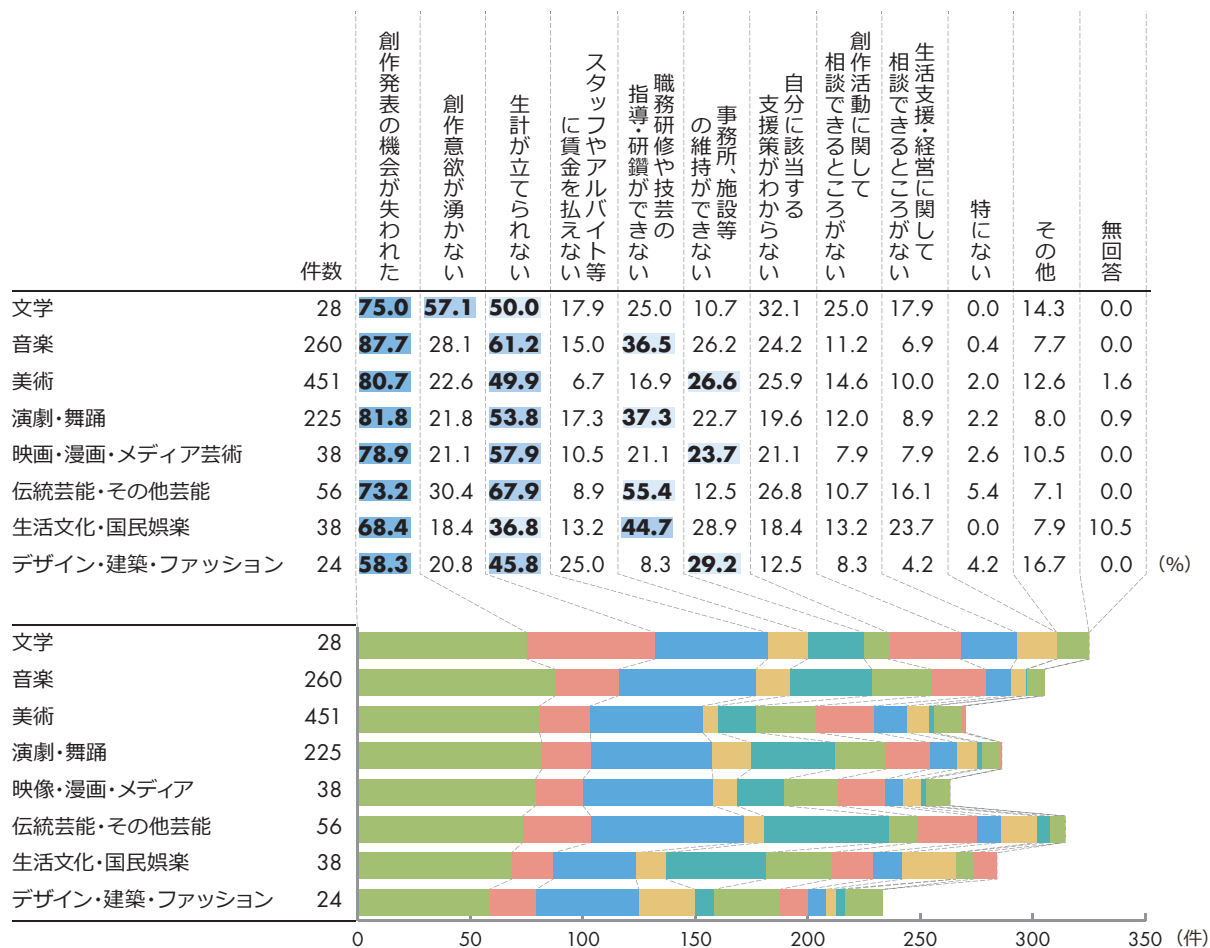
現在困っていること

「創作発表の機会が失われた」という回答が910件に及ぶ(81.1%)。「生計が立てられない」と回答した人も5割を超えるなど切実な状況。「職務研修や技芸の指導・研鑽ができない」は伝統芸能、生活文化の分野、次に演劇・舞踊、音楽の分野が多く回答し、実演をとまなう活動が大きな影響を受けている。「創作意欲が湧かない」というメンタルヘルスの不調から「事務所、施設等の維持ができない」というハード面の不安まで様々な面で困っていることが分かる。

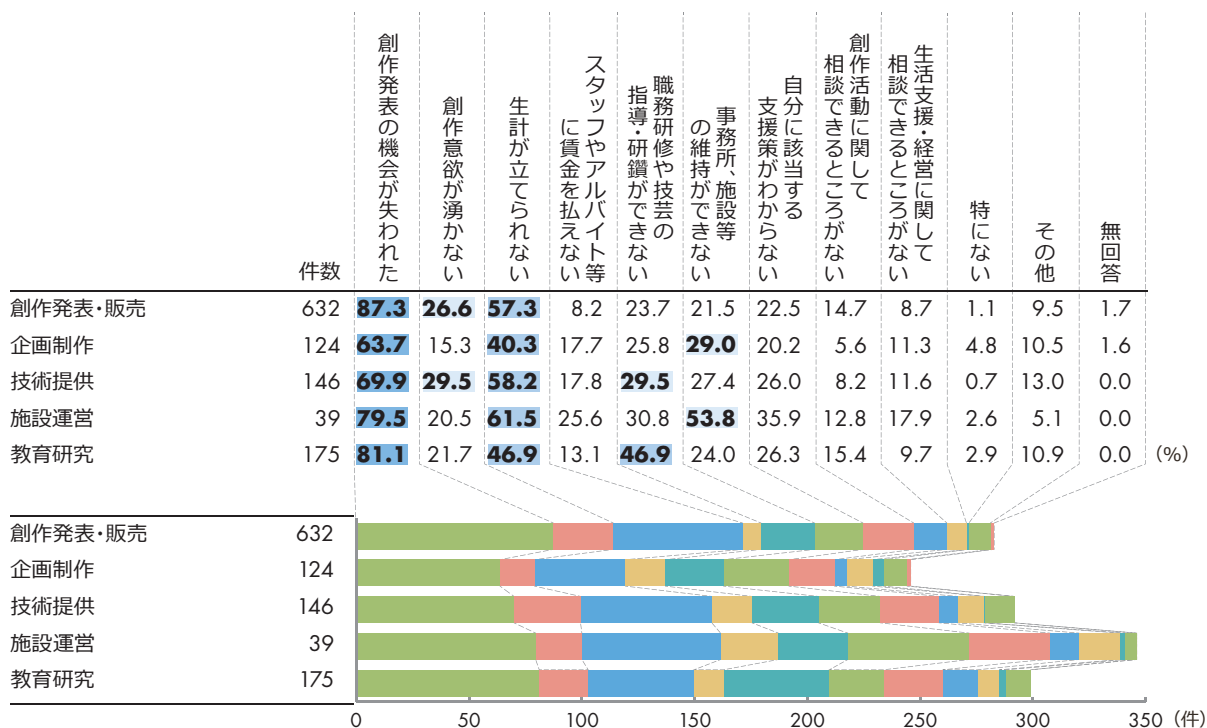
現在困っていること(複数回答)



表現分野別の困っていること(8分野)(複数回答)



業務内容別の困っていること(5分類)(複数回答)

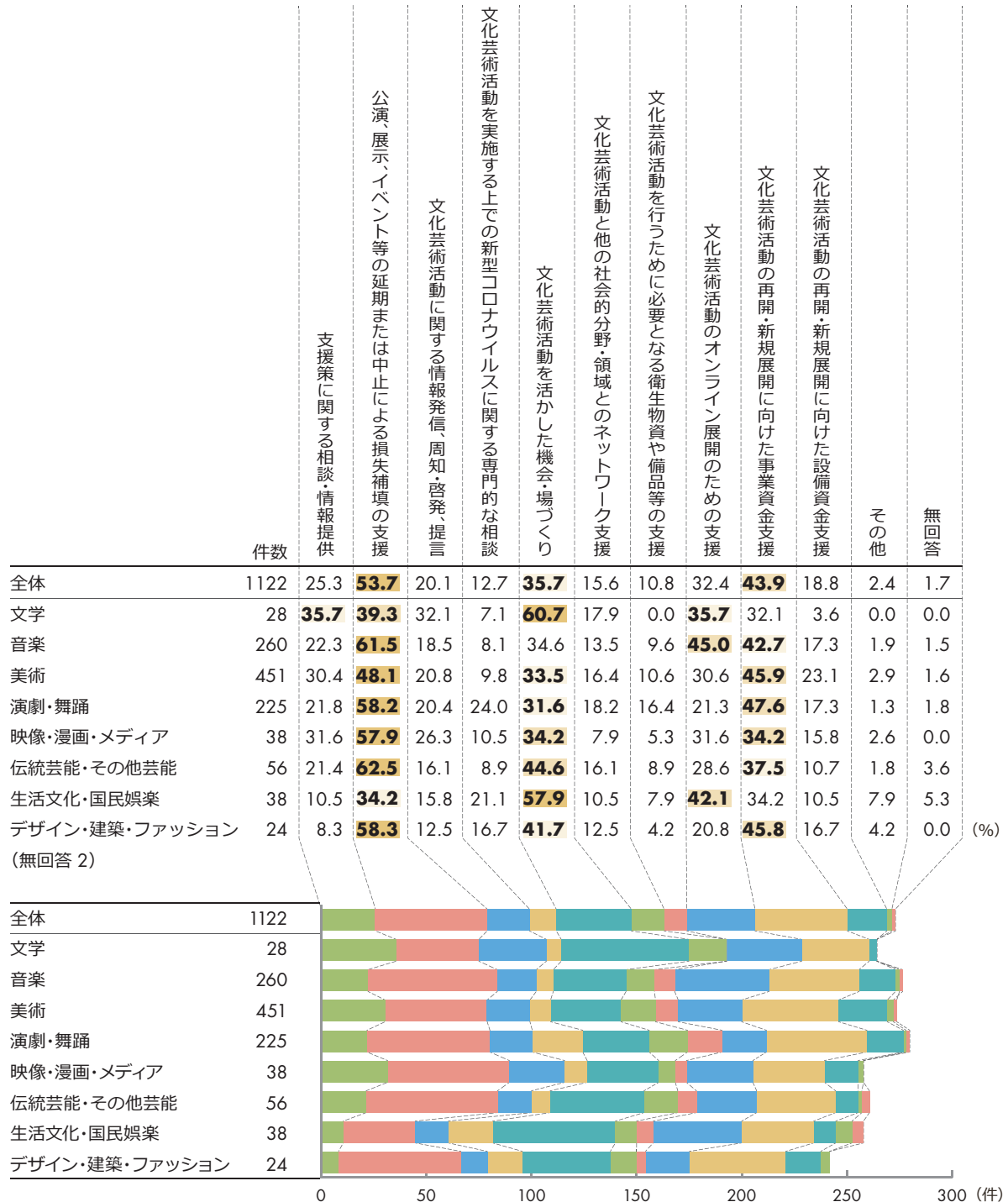


必要な支援として「損失の補填」が最も多い(53.7%)一方、「活動の再開に向けた事業資金支援」(43.9%)、「文化芸術活動を生かした機会・場づくり」(35.7%)、「オンライン展開のための支援」(32.4%)も回答比率が高い。オンライン展開については、音楽、生活文化分野で回答している傾向が高く、演劇や舞踊などの舞台芸術分野では低い回答であり、分野によってオンラインへの対応に差が見られる。また、「支援策に関する相談・情報提供」(25.3%)、「文化芸術活動に関する情報発信、周知・啓発、提言」(20.7%)、「文化芸術活動を実施する上での新型コロナウイルスに関する専門的な相談」(12.7%)を合わせると、相談や情報提供、情報発信に関するニーズが過半数を超え、資金面と活動継続のための環境整備の両面での支援が求められている。

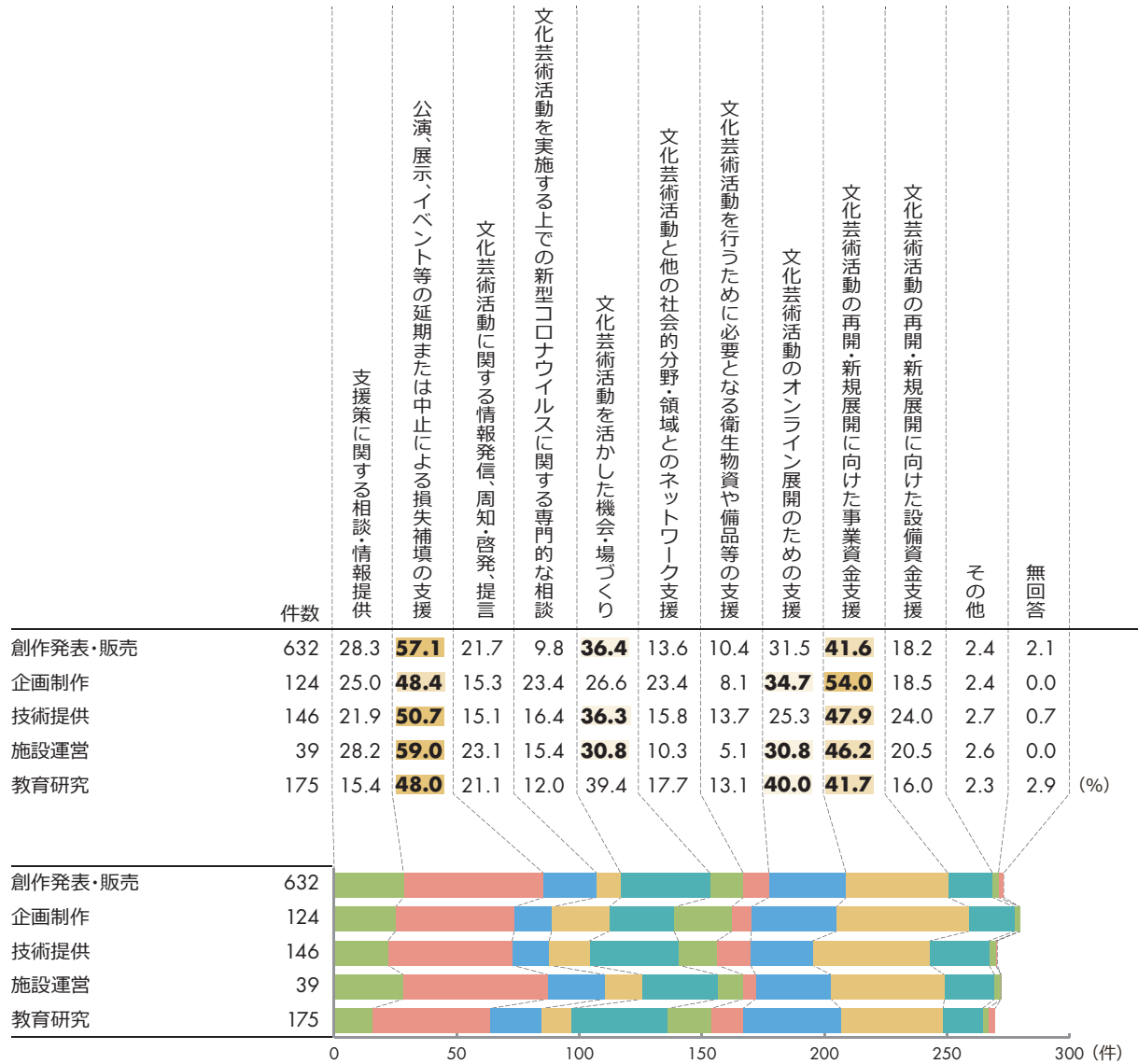
必要な支援(3つまでの複数回答)



表現分野別の必要な支援(8分野)(3つまでの複数回答)



業務内容別の必要な支援(5分類)(3つまでの複数回答)



現状について

実演家のみならず、舞台に携わる裏方さん達の収入も皆無であろうと思われます。舞台・照明・音響さんが(中略)残れなければ、今後の舞台活動に支障をきたすと思います。(伝統芸能・その他芸能／創作発表)

コロナ禍において芸術の役割がわからなくなる。(生活文化・国民娯楽／創作発表)

わたしの住む京都からこのような奨励金制度が設けられ、制作者としても信頼して応募できました。他の給付金と比較してもスムーズな実施でありがたい。(美術／技術提供)

今回の奨励事業は大変ありがたいです。現在は生活することだけでも大変ですが、こういった助成があると創作への意欲が増します。(美術／創作発表)

歌やピアノのレッスンはオンラインでは音響的に限界があるため、新たなスタイルを模索中。(音楽／教育研究)

支援策や新しい動向など、情報が多すぎて対処しきれず、何が正しいのか分からない。(美術／企画制作)

自主企画を開催できるかどうか、開催できても舞台芸術の場合はチケット収入の考え方をこれまでとは変える必要があると考えている。(演劇・舞踊／創作発表)

収入が絶たれ定期収入がない。回復期の機会の創出や支援等と言われていますが、それまで持ちこたえることができるかどうか直面している。(デザイン・建築・ファッション／企画制作)

支援策について

何か業界全体として、アーティストの支援体制、セーフティネットが必要。(伝統芸能・その他芸能／創作発表)

オンラインでも伝えていけるようになるための(IT)技術的知識の勉強の機会。(音楽／創作発表)

公演場所の提供、稽古場の開放など。(演劇・舞踊／創作発表)

京都市文化芸術活動緊急奨励金は素晴らしい制度だと思います。ぜひ今後も状況に応じた支援を継続いただけましたら幸いです。(演劇・舞踊／創作発表)

早急にオンラインの表現活動によって各アーティストが十分な収益を上げることが可能な環境を作ることが大事かと思います。そうした支援があれば皆助かるのでは。(音楽／創作発表)

感染症対策として、専門家と協力し、イベントなど人が集まる際の人数や距離、対策など具体的に数値化して欲しい。(伝統芸能・その他芸能／創作発表)

今までやってきた事が出来ない現状は、新しいことを始めるしかない状況でもあります。新しい活動の為の経済的支援と今後新しい発表の仕方へのサポートを求めます。また、発表や制作の情報シェアも求めます。そうして連鎖的にいいアイデアが生まれ続ける環境が維持されることを望みます。(演劇・舞踊／創作発表)

日本では多くのアーティストが、作品(発表)自体で収入を得るのが難しく、ほかの仕事との兼業で生計を立てていると思います。作品制作(発表)における収入の減少だけを申請の要件にしたら、ハードルは高くなるのではないかと思います。特に支援の必要な若手のアーティストにとっては、とても厳しいのではないのでしょうか。経済的な支援だけでなく、発表の場を広げる取り組みが望まれます。(美術／技術提供)

年内のイベントも、どんどん無くなっています。もう少し先まで見越して長期の対策があると嬉しいです。(伝統芸能・その他芸能／教育研究)

公演開催のための準備を状況の見通しが立たない中で行なっており不安は募る。特に出演者の人件費、上演会場への補償のあり方には議論が必要と思う。(演劇・舞踊／創作発表)

実践している取組

コロナ以降の芸術文化について考える新メディアの立ち上げを準備している。(文学／技術提供)

アーカイブの整理と、記録動画などのウェブでの公開。持続化給付金等の申請。スキルアップのためのリサーチと開発。(美術／技術提供)

オンライン配信による基礎レッスンの提供に向けてネット環境を整えるとともに、少しでも効率的なレッスン動画を配信できるよう自己研鑽に努めている。(演劇・舞踊／創作発表)

発表の場を求めてオンライン配信サービスにチャンネルを作りましたが、収益化までのハードルが高く現時点では無料でご覧いただいているだけの状態です。子供たちに喜んでもらえたらと思い始めたのですが、継続していくための経済力がありません。(美術／創作発表)

5月に入ってから花の宅配での自宅稽古を始めましたが、運送料や箱代などを上乗せするわけにもいかず、収入はかなり目減りします。SNSでの発信などにも取り組んでいます。(生活文化・国民娯楽／教育研究)

オンライン配信サービスを利用した過去作の映像レンタルを始めていますが、多くの人に借りられるまでにはなっていません。これまでのように、ギャラリーを介した作品販売だけではなく、何か別の方法論による資金集めもしなければならぬと思い始めています。(美術／創作発表)

高齢世代の会員たちの健康状態が心配で、一人でプロジェクトを立ち上げオンライン配信サービスにて毎日配信を実施中である。最初はお金をかけないつもりでスタートしたが、(中略)映像配信の質が悪かった事で高齢の方達に音が聞こえないと言われたため、音響機材や撮影機材を自費で購入しスタートしている。(演劇・舞踊／教育研究)

オンライン配信サービスを使用した芸術活動発信をはじめているが、有料企画にシフトしにくい。今後、三密回避やソーシャルディスタンスの徹底のためには、オンライン化は不可避で、芸術活動の根本を揺るがすものと考えます。しっかりとした設備投資をして今後に備えてゆきたい。(伝統芸能・その他芸能／教育研究)

在日外国人に向けて、日本のコロナ関連情報をまとめ、わかりやすくオンライン配信サービスで情報発信する活動を始めている。(演劇・舞踊／教育研究)

ダンスは人から人へと伝授してきたジャンルなので、人と同じ空間にあること、接触、共に働くことは避けられない。オンラインの利用には限界を感じつつも、ミーティング等には積極的に用いている。(演劇・舞踊／創作発表)

コロナ禍によって変容する日常を記録すること。作品のオンライン公開のためのリサーチとして著作権についての調査をしている。(美術／技術提供)

その他

アーティスト・テクニカル・マネジメントスタッフの支払いについて、現地調査費等、準備期間に対する支払いが補償される契約への要望が増えるのではないかと。(美術／企画制作)

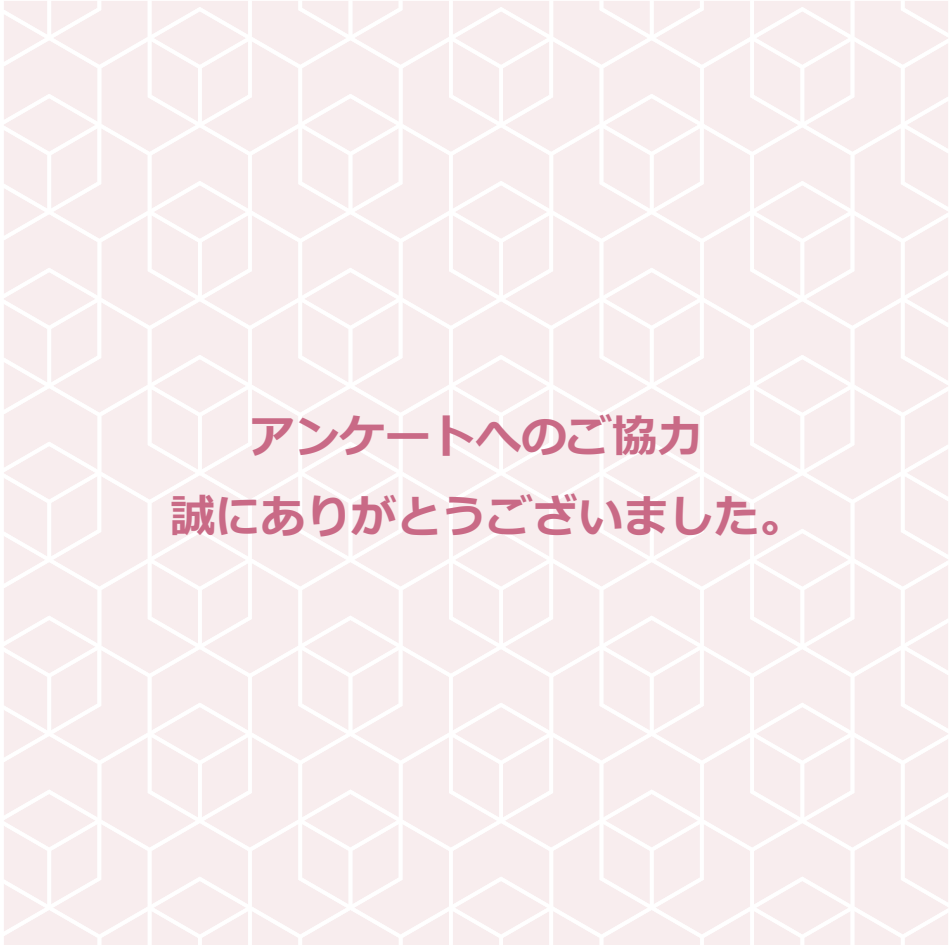
伝統芸能を続ける人を応援してもらえる正規雇用制度があれば今後に繋がると思います。(伝統芸能／教育研究)

芸術活動は今回のような事態に陥ると、閉塞感から作品が縮まります。また先が見通せない不安感は孤立を生みます。地域コミュニティの関心が支えとなりますので、誰もが簡単にわかる宣伝と配信方法を検討いただきたいです。(文学／教育研究)

この度の緊急奨励金の創設、行政が文化芸術の領域に対して支援策を講じることは素晴らしいことで、京都市民であることを誇りに感じました。(生活文化・国民娯楽 教育研究)

バレエ、ダンス、演劇、オペラなどのイベントが始まらないことには、アーティストはいてもイベントを支えるサポートスタッフ業界は潰れるしかありません。(デザイン・建築・ファッション／技術提供)

企業や団体だけでなく僕たちのようなフリーランスに企画や働く場を提供していただければ活動の場やチャンスが広がると思います。今回は僕たちフリーランスのことを知っていただける良い機会だと思い申請しました。(映画・漫画・メディア芸術／技術提供)



**アンケートへのご協力
誠にありがとうございました。**

問合せ先

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地

Y・J・Kビル2階

TEL : 075-366-0033

FAX : 075-213-3181

京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)

TEL : 075-213-1000

E-mail: kyoto_art_support@kac.or.jp